

郷土文学資料センター だより

第9号 2007年5月29日

中原中也生誕百年がもたらすもの

中原 豊

(中原中也記念館副館長)

詩人中原中也が現在の山口市湯田温泉に生まれたのは明治40(1907)年のことである。今年は生誕百年にあたり、誕生日である4月29日を中心として4月8日から5月6日まで生誕百年祭が催された。公募によるデザインに基づいた記念グッズが制作されるとともに、学術講演、朗読や音楽によるコンサート、サークル公演などを内容としたイベントが、中原中也記念館や山口市民会館といった既存の施設だけでなく、元銀行であった建物を改装した「カフェ・ド・中也」や、中央公園に特設されたテント小屋で展開された。

一連のイベントがもたらしたもののは少なくない。例えば、大江健三郎氏の講演は、大江氏の文学と中也の詩との深い関わりだけでなく、仏文学者渡辺一夫と中也との交流の事実を明らかにし、その証である献呈署名入りの『ランボオ詩集』が記念館に寄贈された。あるいはコンサートの中では、木村弓、大江光、東京芸術大学の学生を中心とする音楽グループVoice Spaceが作曲した、中也の詩に基づく新たな楽曲が演奏された。

もちろん、中原中也を観光客誘致に利用したものとする冷ややかな見方もあるだろう。しかしながら、今回のイベントの特徴は、ボランティアで参加した一般市民と、湯田という地域と、中原中也記念館や山口市という行政の組織とが一体となった実行委員会によって行われたことがある。それを象徴するのが、改装から運営まで全てボランティアの手で行われた「カフェ・ド・中也」であり、あるいはテント小屋であった。それは、招聘されたアーティストも、遠方から訪れた熱心な中也ファンも、たまたま訪れた観光客も、それまで中也に関心のなかった一般市民も、同じ時間と空間とを共有できる場であり、その背景には常に中也の詩の世界があった。



[写真解説] テント小屋の夕景（撮影、井町健）

祭りは終わった。人々はそれぞれの生活に戻り、カフェもテント小屋も姿を消した。しかし、その場を共有した経験は何らかのかたちで生きて行くに違いない。

そして、生誕百年の催しは来年三月まで続いていく。そこから何がもたらされるか、引き続き期待している。

楳崎勤関係資料の寄贈について

加藤 穎行

(当センター研究員)

二〇〇六〈平成 18〉年九月七日、山口県文化振興課（当時）西村佳子氏が仲介者となって、楳崎百合子氏から山口県立大学附属郷土文学資料センターに、楳崎勤宛書簡七通、および楳崎勤草稿が寄贈された。以下に、楳崎勤の略歴について簡単に紹介しておく。

楳崎勤は、山口県萩市出身で、昭和初年代の新興芸術派の作家でありつつ、雑誌『新潮』編集者でもあった。楳崎は、自由な言論活動や出版が困難となつていった大正末期から昭和戦前期にかけてその編集に携わり、昭和文学史にとって重要な小説発表の〈場〉であった同誌を、ほとんど独力で守り続けた。主要な著作に、新潮社の新興芸術派叢書として刊行された『神聖な裸婦』（一九三〇〈昭和 5〉年四月、新潮社）『相川マユミといふ女』（一九三〇〈昭和 5〉年一〇月）という二冊の小説集がある。戦後に上梓した回想録『作家の舞台裏 一編集者のみた昭和文壇史』（一九七〇〈昭和 45〉年一一月一五日、読売新聞社）も、昭和期出版ジャーナリズム史にとって重要である。

今回、寄贈された書簡については以下の通り。楳崎勤宛勝本清一郎書簡、楳崎勤宛北村小松書簡、楳崎勤宛佐多稻子書簡（三通）、楳崎勤宛青野季吉書簡、久米正雄宛楳崎勤書簡（二通）の八通である。また草稿は、断片的ながらも、昭和文学史を回顧した記述が書かれたものである。楳崎勤の文壇回想録『作家の舞台裏』を参照してみたが、必ずしもそこに書かれている記述とは一致しない草稿であった。現時点での研究水準では、楳崎勤の著述目録は未完備の段階にあるが、既に発表された回想録であるのか、未発表の草稿であるのかということについては、今後の調査研究によって明らかにしてゆきたい。

今回の寄贈を踏まえつつ本センターでは、中期計画に基づく、二〇〇六年度の積極的収集事業の予算を用いて、楳崎勤の小説原稿「夜の階段」（揃）、および『神聖な裸婦』『相川マユミといふ女』を購入した。本年、二〇〇七年度においては、これらの資料寄贈・資料収集を踏まえて、九月に萩市で開催される山口県立大学のサテライトカレッジにおいて、公開講座「『新潮』編集者 楳崎勤の文学活動」を行い、一〇月には、本センター秋季展示で一部を公開する予定もある。書簡資料の場合、プライバシーの問題と深く関わるので、発信者の著作権継承者による公開承諾書を集めていかなくてはならない。まだまだクリアしていくべき課題は残るが、鋭意、作業を進めていきたい。

本年度の山口県立大学公開講座のうち文学関係のものをご案内します。詳細は次のページ。

やまぐちの文学 公開講座・宇部市 6月2日～30日

やまぐちの歴史と文化 サテライトカレッジ・萩市 9月1日～29日

どちらも毎週土曜日 13時30分～15時です。

詳しくは山口県立大学附属地域共生センター（生涯学習部門）にお問い合わせ下さい。

TEL & FAX：083-928-3495 / 083-928-5622

<http://www.ypu.jp/cccd> E-mail : manabi@yamaguchi-pu.ac.jp

宇部 歌壇 回顧

武市 真弘

(当センター研究員)

昨年三月、やまぐち文学回廊構想推進協議会が発行した『やまぐちの文学者たち』はジャンル別におおくの文学者を紹介している。そのなかに「あらつち」関係の歌人、岩松文弥（宇部、1898～1954）、竹内八郎（萩、1899～1974）、大田哀歌鳥（防府、1890～1977）の三名が入っていて、竹内についての解説を吉武久美子氏が「(平成十七年)通巻六百号を宇部市で発行。短歌誌『あらつち』は五十六年継承されている」と記しておられる。宇部で歌壇といえばまずこの昭和二十五（1950）年創刊の短歌雑誌「あらつち」が著名で、歴史があり、各地に支部を持ち、多数の参加者を有して盛況のようである。

数年前から当センターでは定期的に寄贈資料の紹介を兼ねて展示を行っている。今は「天気」に関する語を書名にもつ図書を展示している。中に『緋の雪／大野豊歌集』一冊が入っている。

「短歌を始めて二十五年」で始まる「あとがき」で「前衛短歌運動の推進者であった富士田元彦さんに、熱心にすすめられて、しぶしぶ出したのがこの歌集である」「昭和三十五年、あの六〇年安保のころ、それまでかかわっていた現代詩から、短歌に転じた。歌壇の封建性を変革しようと、同人誌「曲り角」を創刊した。（中略）塚本邦雄が、川根貞雄の作品を賞揚し、岡井隆が、三隅男治の評論に注目したのもそのころであった。それから二十五年、「未知数」「新風土」と誌名を変えながらも歌誌の発行」を続行の旨、「昭和五九年三月北迫庵にて」記しておられる。

大野氏は翌年二月に亡くなった。そのまえの昭和五十八年五月には有力同人で歌人・文芸評論家の原通久氏が大野氏のことばによれば「夭折」、やがて、山本保氏は国東半島へ、安森敏隆氏は同志社女子大へ転出、という具合で「新風土」集団は散り散りバラバラになった。後に大野氏の志を継いで今城佳夫氏が「虹」を創刊。但し、今回の展示に雑誌ははいっていない。

山口県立大学公開講座 やまぐちの文学

会場：宇部市男女共同参画センター・フォーユー（常盤町1-7-1）

日時（時間は毎週土曜日の13時30分～15時）※資料代1,500円

| 日程 | テーマおよび講義内容 | 講師 |
|----------|---------------------|----------------------------------|
| 6月2日（土） | 嘉村礎多一創作としての手紙をめぐってー | 嘉村礎多研究家 多田美千代 |
| 6月9日（土） | 中原中也生誕百年祭ー中也と短歌ー | 山口県立大学名誉教授 中原中也記念館館長 福田百合子 |
| 6月16日（土） | 上田堂山と『延齡松詩歌集』の世界 | 郷土文学資料センター研究員 野口義廣 |
| 6月23日（土） | 宇部と歌壇 | 郷土文学資料センター研究員 武市真弘 |
| 6月30日（土） | 鶯流狂言の世界 | 郷土文学資料センター所長 稻田秀雄 |

寄 贈 資 料

— 2006年11月～2007年5月 —

- 「角川日本地名大辞典」編纂委員会『角川日本地名大辞典35 山口』(角川書店、1988年)
山口県教育会『山口県百科事典』(大和書房、1982年)
下中邦彦『日本歴史地名大系第36巻 山口県の地名』(平凡社、1983年)
臼杵華臣他『防長の美術と文化第1冊』(学研、1983年)
臼杵華臣他『防長の美術と文化第2冊』(学研、1983年)
大和岩雄『航空大写真集空から見たやまぐち』(大和書房、1982年)
角川文化振興財団『ふるさと大歳時記6 中国四国ふるさと大歳時記』(角川書店、1994年)
臼杵華臣『防長の人と書』(教育書籍、1985年)
山口県編纂委員会『角川日本姓氏歴史人物大辞典35 山口県』(角川書店、1991年)
竹林勘一後援会『竹林勘一画集周防長門「美を描く」』(竹林勘一後援会、1987年)
農山漁村文化協会『江戸時代人づくり風土記35 山口』(農山漁村文化協会、1996年)
中島篤巳『分県登山ガイド34 山口県の山』(山と渓谷社、1995年)
五衛府デザイン『山口県万能地図』(山口図書、1995年)
姫路動員同期会『そのとき私は』(山口県、1984年)
永久鉄哉『文化財探訪必携』(山口県、1984年)
太田静一『落花の舞い』(葦書房、1994年)
福田百合子『外郎の家』(毎日新聞、1987年)
内田伸一他『日本わらべ歌全集19 下山口のわらべ歌』(柳原書店、1992年)
西田ミツエ『遺稿集』(西田建設、1993年)
西田会『好文木』(西田建設、1988年)
(以上、佐野千鶴子氏より寄贈。)
防府市文化協会『防府の生んだ癒しの自由律俳人山頭火』(防府市、2006年)
上野燎『句集望郷』(文學の森、2007年)
守田睦江『海光』(東京四季出版、2007年)
江里健輔『白衣からこぼれ落ちた木の葉髪』(山口県、2007年)

【ご寄贈に感謝申し上げます】

編集後記 ▲今年は中原中也生誕百年に当たり、第一面に中原中也記念館副館長・中原豊氏にお願いして百年祭の意義を記して戴きました。第二面には当センター加藤禎行研究員の「楳崎勤関係資料」寄贈の経緯についての紹介解説を掲載いたしました。
▲当センター設立から20年を経過し、山口県関係の図書（一冊一点）・雑誌（一誌一点）の総計が一万点を超えるました。有り難いことと思います。「センターだより」刊行以来「寄贈資料」欄に著者名・書名を掲載させていただき、謝意を表させて戴いておりますが、今後とも宜しくお願ひ申し上げます。▲当センターへのご要望・お気付き等がございましたらお寄せ下さい。（T）

■編集発行：山口県立大学附属郷土文学資料センター（〒753-8502 山口市桜島3-2-1）

TEL. (083) 928-0211 FAX. (083) 928-2251